

令和6年度第3回大阪府子ども家庭審議会議事概要

日 時：令和7年2月14日（金）15:00～17:10

場 所：大阪赤十字会館 302・303 会議室

出席者：荒井委員、伊山委員、上野委員、奥野委員、亀岡委員、倉石委員、川畑委員、西條委員、佐古委員、白砂委員、滝本委員、竹本委員、田中委員、田畑委員、田村委員、寺見委員、中村委員、農野委員、廣崎委員、森田委員、山内委員、山中委員、與口委員（五十音順）

概 要：

【議題】大阪府子ども計画（案）について

■資料1-1～資料2-3について、事務局から説明

〈委員〉

・労働の質の担保などの観点からも、計画推進の中で見直しを行ってほしい。就労に関し、女性の非正規比率の高さやシングルマザーの所得向上等の課題は、経済界としても考えていく起点としたい。

〈委員〉

・「豊かな心と健やかな体の育成」の項目順について、「学校におけるセーフティネットとなる居場所づくり」が最後になっている意図はあるか。

〈事務局〉

・教育振興基本計画と整合性を図った並び順としている。

〈委員〉

・節分の鬼退治等の行事が不適切保育と誤解される風潮がある。文化や行事の意義を伝えつつ、保育の魅力を発信したい。

〈委員長〉

・不適切保育については、虐待通告義務との関係でが国において検討中である。

〈委員〉

・「外国人の子どもへの支援」に関する大阪府の考え方と記載箇所が分かりにくい。

〈事務局〉

・施策体系上の位置づけは第4章1に、具体的な取組（人権擁護課や国際課、教育庁の取組）は第4章3に記載している。

〈委員〉

・バスの安全運行、子どもへの交通安全教育の記載を検討してほしい。

〈事務局〉

・ご意見を踏まえ検討する。

〈委員〉

・キッズゾーンは施設周辺の注意喚起表示であり、通行規制等があるスクールゾーンとは性質が異なる。

〈川畑委員〉

・難聴児支援について、こめっこの先進的事例の全国展開や、親子関係支援の視点、教育との連携を含めてほしい。また、児童虐待予防としての家庭訪問事業への重点的な支援が必要。社会的養育における「小規模かつ地域分散化」は、必ずしも「質の高さ」とイコールではないため、形態に限定せず質の高い養育環境をめざすべきと記載できないか。

〈事務局〉

・難聴児支援の全国展開の視点や親子支援、教育連携については担当部署と相談する。子育て世帯訪問支援事業については成果指標に掲げ目標達成に取り組む。

〈委員〉

・「子どもの居場所」に「若者」が含まれるかが分かりにくい。「子どもの権利ノート」は被措置児童向けツールだが、一般相談で活用しているかのような記載は誤解を招く。

〈事務局〉

・居場所に若者が含まれることが分かるよう書きぶりを検討する。権利ノートについても実態に即して修正する。

〈委員〉

・インターネット上の危険への対策は盛り込まれているか。

〈事務局〉

・第4章3にフィルタリング利用促進や啓発活動について記載している。

〈委員〉

・里親委託率の数値目標だけでなく、里親へのサポート体制についても記載が必要。また、親子関係再構築の取組実績が少ないが、不足分への具体的計画はあるか。

〈事務局〉

・里親委託率は里親支援体制の充実を前提とした数字であり、第 9 章に経緯を記載している。親子関係再構築は、件数は多くないが、何回も繰り返していただき進んでいくもの。市町村の親子関係形成支援事業等を含め、長い目で目標達成をめざす。

〈委員〉

・受動喫煙防止対策や、子どもの生活習慣病予防についての記載はあるか。

〈事務局〉

・いずれも第 4 章 3 の個別事業の取組に記載している。

〈委員〉

・スクールカウンセラー相談件数の目標値増は、問題の増加と誤解されかねない。潜在的な相談の掘り起こしである旨を補足すべき。

〈事務局〉

・相談につながっていない人を繋げる意図であるため、補足を追記する。

〈委員〉

・社会的養護の施設分散化は理解するが、大阪府の現状では施設も里親も増えにくく、重篤化する子どもへの対応を含め、5 年間の計画を立てるのに難しさを感じる。

【議題】大阪府子ども計画（案）について

■ 説明資料 3 - 1 ~ 資料 3 - 3 について、事務局から説明

〈委員〉

・アンケート回答者に偏りを感じる。マイノリティ等の隠れた声を拾う仕組みが必要。

〈事務局〉

・府が委託している民間会社のモニターを活用してアンケートを実施しているため、バイアスがかかっている可能性がある。今後の課題としたい。

〈委員〉

・概要版や全体版を見ても、当事者が自分に関係する支援を探すのが難しい。HP 公開時にリンクを貼る等の工夫をしてほしい。

〈事務局〉

・HP 公開時のリンク設定など、支援が必要な人に届く工夫を検討する。

〈委員〉

・意見表明が難しい障がいのある子ども・若者、低年齢児等から幅広く意見を聴く仕組み作りが重要。

〈委員〉

・年齢が上がると意見を言う機会が減るため、学校の授業でアンケートを行うなど、意見を聴く時間の確保が必要。

〈委員長〉

・大阪府らしい仕組み作りをお願いしたい。

【議題】 専門部会の調査・審議状況について

■ 資料主について、事務局から説明

【議題】 その他

〈委員〉

・子ども主体の社会をめざし、量の達成だけでなく質の向上を重視してほしい。進捗確認には当事者や団体の意見も反映させてほしい。

〈委員〉

・居場所事業において、オーバードーズ等の困難事例への支援は専門性が必要。行政による民間へのバックアップが必要。

〈委員〉

・啓発ポスターが怖すぎることがある。子どもが身近に捉えられるツールの工夫を。

〈委員〉

・子ども会は地域教育を担っている。授業料無償化等の地域間格差の是正を求める。

〈委員〉

・ひとり親家庭の自立促進計画の周知に感謝する。今後も連携して取り組みたい。

〈委員〉

・スクールカウンセラーへの相談やいじめ認知件数の増加は、教員が実態を把握できている良い傾向と捉えている。保護者を支えるシステム構築も重要。

〈委員〉

・非認知能力の醸成についても次期計画等で検討してほしい。

〈委員長〉

・前向きなご意見をいただいた。これにて閉会とする。